慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	執筆者紹介；編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2022
Jtitle	近代日本研究 (Journal of modern Japanese studies). Vol.38, (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20210000-0281

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

執筆者紹介（掲載順）

藤岡健太郎	九州大学大学文書館教授
中村江里	九州大学大学文書館事務補佐員
赤司友徳	九州大学大学文書館准教授
小枝弘和	同志社大学 同志社社史資料センター 社史資料調査員
村松玄太	明治大学 学術・社会連携部博物館事務室 （大学史資料センター担当）
豊田雅幸	立教学院展示館 学術コーディネーター／学芸員
都倉武之	慶應義塾福沢研究センター 准教授
山梨淳	
松岡李奈	中津市歴史博物館学芸員
山内慶太	慶應義塾常任理事

編集後記

二〇二一年度は、福沢諭吉記念慶應義塾史展示館が開館を迎えたこともあり、本巻では「学校史の展示とその展開」と題する特集を組み、全国の各大学のうち、特に意欲的に学校史の展示に取り組んでいる大学の担当者からご寄稿を頂戴した。

九州大学からは、同大学大学文書館の藤岡健太郎・中村江里・赤司友徳の各氏の共著による「九州大学大学文書館における展示活動と自校史常設展示の開始」、同志社大学からは、同大学同志社社史資料センターの小枝弘和氏による「大学アーカイヴズの展示活動の現状に関する一考察――同志社大学同志社社史資料センターを事例として――」、明治大学からは、同大学学術・社会連携部博物館事務室の村松玄太氏による「人物展示の観点からみた大学アーカイブズ構築資源の活用――明治大学での実践を踏まえて――」、そして立教大学からは、立教学院展示館の豊田雅幸氏による「「立教学院展示館」の構想と活動」、と題するご論考を頂戴し、慶應義塾からは、塾史展示館の運営に当たっている都倉武之氏から、「学校史展示における節度と積極性――福沢諭吉記念慶應義塾史展示館開設に おける模索――」とのご論考を寄せていただいた。ご多用のなか、いずれも大変優れたご論考をお寄せいただいたことに、深く感謝申し上げる次第である。

一般公募論文では、査読の結果、山梨淳氏による論説「福沢諭吉の論説「宗教も亦西洋風に従はざるを得ず」とカトリック教会――教皇庁対日外交の始動との関連で――」が掲載されるにいたった。福沢の論説が海外のキリスト教界に伝播し、教皇庁による対日外交の始動に寄与していく過程を描き出した力作である。巻末の資料紹介では、例年通り「福沢諭吉・慶應義塾関係新資料紹介」を掲載したほか、中津市歴史博物館学芸員の松岡李奈氏に、渡辺重春著「留別書弁」を紹介していただいた。また、長年、慶應義塾史および福沢の研究に取り組んで来られた佐志傳氏の著作目録も付した。いずれも、福沢諭吉・慶應義塾研究にとって重要な資料であり、読者諸氏のご高覧を請う次第である。

次巻の発行は、二〇二三年二月を予定している。意欲的な論考の投稿を期待したい。